

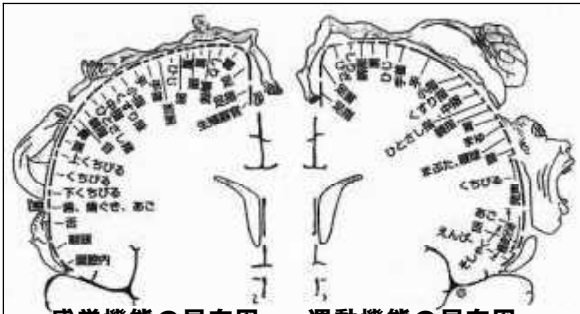


学校だより No.6

加治木の風

「読書・あいさつ・あせ」
始良市立加治木小学校
令和2年9月11日

指は第2の脳



感覚機能の局在図 運動機能の局在図
「ホムンクルスの図」

何とも奇妙な左の図は、「ホムンクルスの図」と言います。脳神経外科医のワイルダー・ペンフィールドが脳が体のどの部分と密接につながっているかを描いたものです。

脳の中には、動作を指令する「運動野」と感覚を感じ取る「感覚野」があります。

驚くべき点は、2つの領域において、「指(手)」と「口」の占める割合がとても大きいということです。

乳幼児はあらゆる物を口に入れたり、手で触ったりしがります。口に入れたり、指で触ったりすることで、その物の特徴や性質をとらえています。口や指の優れたセンサーによって脳が刺激され活性化されているのです。

乳幼児から学童期の子供たちに直接体験が必要だと言われるのは、子供は五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）を通して対象を捉えているからです。

幼児は概して砂遊びが好きです。手で山をつくったり、トンネルを掘ったり、せっかく作った山に水を流してくずしたり、時間を忘れて遊びます。砂に触れることで、崩れやすいこと、水がしみこみやすいことを学びます。「指(手)は第2の脳」と言われる所以です。道具も友だちと折り合いをつけて使ったり、協力して何かを作ったりすることで人の感情を押し量ったり、相手の気持ちを思いやったりする力が育ちます。砂遊びをする動画を見てもそのような力は決して育ちません。

子供たちの五感を使った体験が今確実に不足しています。母親がスマホに目をやりながら授乳する光景、ぐずる乳幼児をスマホのアプリを使って静かにさせる光景はめずらしくないと言います。小中学生は、生活の多くの時間をメディア機器に向かう時間に費やしています。人の感情を感じ取ったり、相手の気持ちを思いやったりする力を育む直接人と関わる機会が減少しています。人の生活を豊かにするはずのものが皮肉にも子供の健全な成長を阻害する要因となっています。

スマホやゲームを長時間する子供は、感情のコントロールができなかったり、学力が低下したりするなど脳に障害を及ぼすことが証明されています。視力の低下など健康面にも深刻な影響を与えます。

インターネット社会を生きる子供たちにはメディア機器を賢く利用する力が必要です。しかし、子供の健全な成長にとって本当に必要な物なのか、どのタイミングで与えればいいのか私たち大人の責任として学び、考えなければならぬ時が来ています。

(9月8日 戸高成人氏講演を参考)

～9月27日(日)の秋季大運動会について～

新型コロナウイルス感染防止のため、本年度の運動会は誠に申し訳ありませんが、参観者は保護者(父母)のみとさせていただきます。楽しみにして下さっている方には申し訳ございませんが、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。